憲法と人権を考える市民のつどい

埼玉弁護士会

ほんとうにいいの？集団的自衛権

■講演
高遠菜穂子（イラク支援ボランティア）

■パネルディスカッション
高遠菜穂子
長谷部貴俊（日本国際ボランティアセンター事務局長）
柳澤　協二（元内閣官房副長官補）

2015年
5/21（木）

午後6時開場／6時30分開会

埼玉会館小ホール

主催　埼玉弁護士会
さいたま市浦和区高砂4-7-20　電話 048-863-5255

共催　日本弁護士連合会　関東弁護士会連合会

入場無料　事前申込不要（但し定員あり）

あなたが戦地に派遣される時

柳澤　協二
（やなぎさわ きょうじ）

長谷部貴俊
（はせべ たかとし）

高遠菜穂子
（たかとう なほこ）

現在、政府は、本閣議決定を踏まえて、自衛隊法、周辺事態法などの安全保障関連法案を取りまとめ、今通常国会に提出しようとしている。しかし、他国防衛のために自衛隊を海外に派遣し、又は国際貢献の名目の下で、自衛隊の活動範囲を限定してきた非戦闘地域の枠を取り除くことなどにより、自衛隊員が武力紛争に巻き込まれ、外国人を殺し、あるいは自衛隊員が殺される危険性が高まることや、日本人もテロ行為の標的となる危険性が高まるなどの重要な問題点について、国民的な議論が尽くされていない。このような国民的議論が尽くされていない状況の下で、政府が違憲無効な本閣議決定に基づき、とりまとめた安全保障関連法案を国会に提出することは許されないことである。また、同様の状況の下で、本閣議決定に基づく安全保障関連法案につき、短期間で拙速な審議を行い、強行採決するようなことがあれば、同様に、立憲主義や国民主権の理念や恒久平和主義を掲げる憲法に違反するものであることから断固反対する。

2015年3月

埼玉弁護士会「安全保障関連法案の改定に断固反対する会長声明」より抜粋

柳澤 協二

Yanagisawa Kyouji（やなぎさわ きょうじ）

1946年東京生まれ、1970年東大（法）卒・防衛庁入庁、官房長・防衛研究所長を経て、2004年～2009年、小泉・安倍・福田・麻生政権の下で内閣官房副長官補（安全保障・危機管理担当）

現在・NPO国際地政学研究所理事長、同新外交イニシアティブ理事、「自衛隊を活かす」21世紀の憲法と防衛を考える会代表。

主な著書・『抑止力を問う』（2010年かもがわ出版）、『官邸のイラク戦争』（2011年岩波書店）、『亡国の安保政策・積極的平和主義の罠』（2013年岩波書店）、『自分で考える集団的自衛権・若者と国家』（2013年青灯社）、『亡国の集団的自衛権』（2014年集英社新書）。

長谷部 貴俊

Hasebe Takatoshi（はせべ たかとし）

1973年福島県生まれ。明治大学政治経済学部卒業。East Anglia大学大学院修士課程農村開発専攻（イギリス）。学生時代は日本国内の外国人労働者支援に取り組む。シャンティ国際ボランティア会（1999年～2005年）を経て、2005年6月より日本国際ボランティアセンター（JVC）勤務。アフガニスタン東京担当を経て、2008年1月よりアフガニスタン現地代表を兼任。現地での事業運営と政府への提言活動を行う。2012年よりJVC事務局長。つながっぺ南相馬理事。共著『脱「国際協力」／アフガニスタンにおける民軍連携とNGO』（2011年新評論）、共著『終わりなき戦争に抗う／「テロとの戦い」とNGO』（2014年新評論）等。

高遠 菜穂子

Takatou Nahoko（たかとう なほこ）

1970年、北海道生まれ。イラク支援ボランティア。大学卒業後、会社員を経て地元で飲食店経営に携わる。2000年インドの「マザーテレサの家」、2001年からタイ、カンボジアのエイズホスピスでボランティア活動に専念。2003年5月からイラクでの活動開始。2004年4月にイラク・ファルージャで「自衛隊の撤退」を要求する現地武装勢力に拘束された。解放後、日本国内で「自己責任」バッシングを受ける。現在もイラク人道・医療支援活動を継続中。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」呼びかけ人。著書に『戦争と平和　それでもイラク人を嫌いになれない』（講談社）『破壊と希望のイラク』（金曜日）など、共編訳に『ハロー、僕は生きてるよ。ーイラク最激戦地からログインー』（大月書店）。

JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線「浦和」駅西口徒歩8分
〒330-8518 さいたま市浦和区高砂3-1-4　電話：048-829-2471